

平成 21 年度指定

**宗永寺五輪塔（森長継一門供養墓）**（そうえいじごりんとう もりながつぐいちもん くようばか）

法源山宗永寺は臨済宗妙心寺派の末寺で、森家第2代藩主、森長継母の菩提寺として明暦2年（1656）に建てられました。「溪花院殿春嶽宗永大師」の諱「宗永」を寺号としています。

溪花院は、森忠政の娘で美濃金山に生まれました。関成次に嫁ぎ、元和元年（1615）21歳で津山に没しました。

五輪塔は、東から梅雲院（於つま、森長継側室）、清泰院（於竹、森忠政側室）、陽林院（頼母、森長継母）、溪花院（於郷、森長継母）、影幻院（吉之助、森長継子息）、本光院（於鍋、森長継娘）と並んでいます。平面約2.6m四



宗永寺五輪塔（南西から）

方、高さ約1mの凝灰岩製の石組の上に基礎石、反花座を置き、その上に高さ3.2～3.6mの花崗岩製の五輪塔が置かれます。やや小型の梅雲院のものを除き、全体の高さは4～4.7mをはかり、墓誌には長継一門の没年月日、諱が刻まれ、墓前の両側に石灯籠が並んでいます。森長継一門の供養塔として17世紀中頃から後半に順次造営されたもので、本源寺にある森家一門の大名墓（県指定重要文化財）と並び、大名墓としての風格を備えたものです。（平成22年11月25日指定）